立正大学
「モラリスト×エキスパート」を育む。

150th RISSHO
2022年 開校150周年

仏教学部 2024

どこにもない学びが、
それぞれの未来につながっていく。

仏教学部で身につけるのは「いまを生きる教養」

グローバル化や情報化が社会にひずみを生み、世界のあちこちで文明・文化の衝突が起こる現代。仏教学部の学びには、こうした難問を解決するヒントが詰まっています。仏教の叡智が教えてくれるのは、自己も他者も尊重することの大切さと、どんな未来にもつながる普遍性を備えた「いまを生きる教養」です。

入学後、3年次進級の時に学科（コース）を決定。

多様性を備えた仏教学部の学びの中から、本当に自分が学びたい分野・テーマを見出すため、1・2年次は仏教全般にわたる基礎を幅広く学びます。そして、3年次進級の際に学科（コース）を決定し、専攻分野の学びを深めていきます。新しい学びの形の中で、あなたの未来を見つけてください。

1・2年次は仏教学部生全員が共通のプログラム（科目群）で、仏教全般にわたる基礎を幅広く学びます。➡P.4

1年次 → 2年次 → 学科（コース）を決定 → 3・4年次

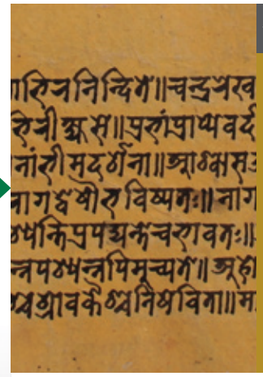
※3・4年次の所属先は、本人の希望と1・2年次の履修状況などに基づいて決定します。

立正大学に住み着いて、仏教に縁のある人の前に現れる白い妖精「ブッダン」。仏教学部の卒業生が創り出した、みんなに愛されているキャラクターです。

立正大学仏教学部入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

仏教学部では、学部の教育目標に共感した、下記のような者の入学を期待します。

1. 仏教の教え、仏教史、仏教文化・芸術などに深い関心をもっている者
2. 正義を尊ぶ高い倫理観を持ち、仏教を通じて自己形成と社会貢献を志している者
3. 学問に対する向上的意志を有している者



仏教学科

思想・歴史コース

約2500年前のインドで生まれ、日本を含むアジア各地、さらに世界へと広まっていった仏教。自己と他者を理解し、いかに受け入れるかを説く仏教の本質は、どういった経緯をたどり大成されたのか。その歴史的な流れと、仏教を形づくるさまざまな思想・教理を学んでいきます。

➡P.6

仏教学科

文化・芸術コース

多彩で個性的なアジア各国の文化を、ほかの文化圏との比較の視点に立ち学んでいきます。アジアにおける文化・芸術のルーツである仏教について、精神性や時代背景も含めて総合的に学修し、さらに理解の一助として美術作品の制作にチャレンジすることもできます。

➡P.7

宗学科

日本仏教コース

発祥の地インドから西域を経てもたらされた仏教は、社会・政治的な背景に影響を受けつつ、独自性を備えた「日本仏教」として確立されました。私たち日本人の精神に深く根ざした仏教について、宗教・文化・歴史などを踏まえアイデンティティ（拠りどころ）として再評価していきます。

➡P.8

宗学科

法華仏教コース

立正大学建学の精神であり、現代社会の実現すべき課題ともいえる「真実」「正義」「和平」。この3つの信条に忠実であろうと数々の試練に耐え、人々の救済に尽くした日蓮聖人の生涯、および日蓮思想の源流である法華経を探究していくことで、他者を思いやり、教えを実践できる精神性をはぐくんでいきます。

➡P.9

1・2 年次の学び

学びの楽しさを知り、さまざまな出あいを通じて視野を広げる。

高校時代とは異なる学修への取り組み方を修得。多様な視点から仏教全般にわたる基礎知識を身につけ、原典講読に必要な古文・漢文のスキルも磨きます。

新たな生活・新たな学びへの不安を解決！

新入生オリエンテーション

チームで取り組むユニークなイベントも導入。

入学後すぐに開催される新入生オリエンテーションでは、学部の先輩たちとのグループワークで交流を深める「履修懇談会」に加えて、暗闇の中で視覚以外の感覚を使ってさまざまな体験をする「ダイアログ イン ザ ダーク」を実施。仲間と協力して課題に取り組むことで、自然に一体感が生まれます。学部を挙げて新入生を迎える温かな雰囲気が仏教学部の特色です。

チューター制度

学部の先輩・大学院生が学生をサポート。

仏教学部では、学生一人ひとりの学修・生活をサポートすることを目的に「チューター制度」を導入しています。学部の先輩や大学院生が「チューター」として仏教学部懇談室に常駐し、「レポートを書きたいが、何から始めればよいか？」「読んでおくべき本は？」「勉強とサークル活動を両立するにはどうすればよい？」など、身近な疑問・質問に答えます。懇談室のドアは常にオープン。入りやすい雰囲気が新入生にも大好評です。

学修の基礎

少人数制の講義や演習で専門教育の土台を作ります。

仏教学部の新入生全員が受講する「学修の基礎」は、大学生活への適応と専門教育へのスムーズな移行を目的にしたカリキュラムです。少人数制の講義や演習で、学生たちは活発に交流しながら、コミュニケーションスキルとアカデミックスキルを身につけていきます。

さまざまな学生との出あいが自分の個性に気づくきっかけに

丹治恭子 教授

研究入門

3年次進級時のコース選定の迷いを解消するために4つの「研究入門」科目を開設しています。

3年次進級時の学科（コース）決定を見すえた導入科目として、1年生に向けて各コースの名称を冠した4つの「研究入門」科目を開設し、各コースにおける学びの内容や特色、研究法について丁寧に解説します。「このコースではどのようなことを学ぶの？」といった疑問の解決と、多様性ある仏教学部の学びの中から、自分が本当に学びたい分野・テーマを見出すことが、科目開設の狙いです。

●１年次：２科目以上選択必修（3科目以上履修推奨）

思想・歴史研究入門 ／ 文化・芸術研究入門 ／ 日本仏教研究入門 ／ 法華仏教研究入門

↓

●３年次進級時

学科（コース）を決定

仏教学演習基礎

仏教の多様性と普遍性に触れ、専門的な学びの基礎を固めます。

仏教はインドで生まれましたが、その後さまざまな国と地域で展開され、発展してきました。日本の仏教もそのひとつですが、それがすべてではありません。そうした仏教の多様性を知り、仏教の根幹にある「生」と「滅」、「諸行無常」という言葉で表現できる普遍的な思想を理解することが「仏教学演習基礎」の目的です。誰にでも必ず死は訪れ、人生は限りあるものだという仏教の教えは、だからこそ前向きに生きようという私たちへのエールでもあります。

学びの中で、専門テーマを選ぶ手がかりが見つかるはず

庄司史生 准教授

アジア文化史

アジアの多様な文化を学び、視野を広げます。

「アジア文化史」では、アジアで展開された文化の諸相を学びます。特に、南アジアと東南アジアを中心に、仏教やヒンドゥー教をはじめとした諸宗教の思想的特質や、そうした思想に基づき創造された建築や美術の多様な表現に注目します。文化の担い手となった人々の営みを浮き彫りにし、私たちの文化とアイデンティティのルーツをたどります。

各地の歴史や文化に触れることで、新たな気づきが得られます

久保真紀子 専任講師

その他の1・2年次主要科目	文献読解基礎演習／東洋文化史／日本文化史概論／サンスクリット語初級／芸術実習基礎／インド仏教史／仏教学概論／日本仏教史概論／日蓮聖人伝 など

思想・歴史コース

世界の異なる思想や歴史を多面的に学び、ものごとの本質を理解する力を育みます。

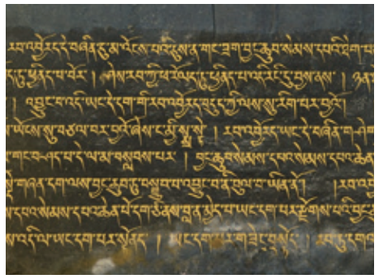
思想・歴史コースは、仏教の思想そのものや歴史的背景の理解を目的に、ていねいに文献・史料を読み解く手法を身につけることをめざします。
伝統的な仏教学の柱であるアビダルマ・中観・唯識・天台・華厳の諸思想や、日本人の思惟方法に大きな影響を与えた法華経の思想・教理などを系統的に学びます。

【学びの領域】
- 原始仏教の思想
- 部派仏教の教理
- 大乗仏教の思想
- 仏教の発祥と展開
- 仏教と他宗教の思想を比較検証
- 文献・史料の読み方
- 多言語の学修（サンスクリット語、チベット語ほか）

授業 Pick Up!

比較思想論２

世界の諸思想には思想家たちによって構築された体系的なものから、生活に根付いた常識に近いものまでがあり、それぞれに一定の類似性や異なった性質があります。諸思想の類似性や別異性を理解した上で、それらの持つ論理や成立背景を考察し、自己と他者を理解する能力を身につけることをめざします。



チベット語入門

チベットにおける仏教伝来は日本よりも遅く、7世紀とされています。8世紀以降、主にインドから仏教の伝統を直接受け入れ、13世紀におけるインド仏教の滅亡以後もチベット仏教は発展を続けていきました。インドでは失われてしまった仏教の伝統を今に伝えるチベット語文献を読解するための基礎を学びます。

Rissho Style

思想・歴史コース 3 年

学びを通して身についた対象を多角的な視点から判断する力。

日本の歴史や美術を仏教の視点から学びたいと考え、立正大学の仏教学部は他にはない独自の科目や研究分野の先生方がいらっしゃるので、志望しました。
授業では「世界の宗教地理」が印象的でした。西洋とアジア各国の地勢的・歴史的・宗教的な関わりやシルクロードに沿った各地の仏教美術、仏教以外の宗教など、さまざまな分野の理解が深まりました。
1・2 年次に興味を持った分野をもっと深掘りして学びたいと考え、3 年次からは思想・歴史コースを選択。例えば仏像について、歴史や地理、彫刻技法、保管状況の面から学ぶなど、多角的な視点から判断する力が身についたと感じます。これは、社会に出てからも、幅広い年代や価値観の人々とコミュニケーションを取る上で大いに役立つと考えています。

文化・芸術コース

仏像・仏画などの鑑賞や制作を通して、文化への総合的な感性を磨きます。

文化・芸術コースは、人間の営為としての“文化”を本質的に理解することを目的に、歴史・芸術・思想・宗教などを考察する方法を身につけることをめざします。
国家や地域社会を動かす政治・経済から、私たちの日常生活や年中行事にいたるまで、それらはすべて人間の思考・感性によって営まれた広義の“文化”なのです。

【学びの領域】
- アジアの精神文化
- 南・中央・東・東南アジアの仏教美術
- 異文化の検証（ヒンドゥー教・儒教ほか）
- 日本の仏教文化
- 文化財の維持・継承
- 仏像・仏画の制作実習

授業 Pick Up!

文化財論３

文化史理解のための新たな方法として「（有形）歴史文化財」という視点を設定し、その基本概念と歴史的背景の理解をもとに、日本の古代から近世にいたる各時代の建築物、仏像・仏画や神像類を題材に、歴史・民俗・信仰・芸術等、各方面の研究に展開していくための方法論と考え方の修得をめざします。

芸術実習「仏像Ⅱ」「仏画Ⅱ」

受講者自身が仏像の制作、あるいは仏画の模写を行います。たとえば仏像をつくるという造形行為は、その実践を通してしか得られない体験内容をもちます。この実習では、その行為を通して基礎的な造形力を養い、仏像の基礎知識を習得しながら、自らが創造することの喜びを感得することをめざします。

Rissho Style

文化・芸術コース 3 年

美術作品から文化や歴史、当時の人々の思想まで感じ取る。

もともと東洋美術に興味があり、美術系の大学・学部に進学を考えていましたが、本学のオープンキャンパスで仏教学部を知り、実際に仏像制作ができる文化・芸術コースに魅力を感じて志望しました。
仏教学部の学びは、歴史・文化・芸術といった多方面から仏教に対する理解を深めていくところに特徴があります。私は、「アジア美術史」の授業で東南アジアの美術史を初めて学び、とても刺激を受けました。美術作品から文化や歴史、当時の人々の思想まで感じ取れる授業は、他にあまりないのではないでしょうか。
3 年次からは、仏像制作をしたいという希望どおり、文化・芸術コースを選択しました。また、将来は博物館などの仕事に就きたいと考え、学芸員の資格取得の勉強に取り組んでいるところです。

日本仏教コース

日本仏教の歩みを体系的に学び、そこから得た叡智を現代に生かす応用力を身につけます。

約2500年前、釈迦により説かれた仏教は、西域の国々を経て６世紀半ばに日本に伝わり、社会・政治的な背景に影響を受けつつ、独自性を備えた「日本仏教」として確立されました。
日本仏教コースでは、私たち日本人の精神に深く根ざしている日本仏教全般の思想・歴史、文化の様相を学びます。また、その見地より現代社会が抱える諸問題にアプローチします。

【学びの領域】
- 仏教伝来のプロセス
- 日本仏教の歴史的展開
- 仏教と日本文化史
- 仏教各宗派の教義
- 現代社会の諸問題と仏教

授業 Pick Up!

日本仏教史特論１・２・３・４

6世紀に外来宗教として日本へと伝来した仏教は、その後どのようにして日本の社会に定着し、発展を遂げていったのでしょうか。この講義では史料に基づき日本の各時代の仏教史の特色、また様々な宗教的・社会的・文化的諸問題を取り上げ、日本史と深く関わる日本における仏教の受容と展開についての理解を深めます。

日本仏教思想特講１・２・３・４

日本仏教は、飛鳥仏教・奈良仏教・平安仏教・鎌倉仏教と称されるように、それぞれの時代の中で、その時代に適応した様々な形の仏教が展開し、日本社会の中に定着していきました。日本仏教を形成する各宗派・各僧侶の思想・教学を俯瞰的な視点から学修し、その内容・特色や思想的な関連性について学びます。

Rissho Style

日本仏教コース 3 年

座学にとどまらない深い学びや気づきが得られる実感がある。

高校生の頃から「子どもの自己肯定感」に関心があり、これに仏教的視点からアプローチしたいと思っていました。立正大学仏教学部の、特に「法華経」の学びに魅力を感じて志望。1 年次は授業についていくだけで精一杯でしたが、2 年次になって専門科目が増え、「法華経概論」や宗学系の科目では自己の在り方が問われるなど、座学にとどまらない深い学びや気づきが得られる実感がありました。

以前から抱いていた「子どもの自己肯定感に仏教的視点からアプローチする」という学問的な軸とリンクできるのは宗学的視点であると考えるようになり、3 年次からは日本仏教コースを選択。立正大学仏教学部でしか学べないことを深めて、卒業後は人と直接関わる仕事に就きたいと思っています。

法華仏教コース

日蓮聖人の思想や行動をたどり、法華経の教えを自ら実践しながら受け継ぐ担い手を育成します。

国の内外に騒乱の火種を抱えていた鎌倉時代、数々の試練を物ともせず人々の救済に生涯を捧げた日蓮聖人（1222－1282）。その生き方は、現代を生きる私たちにもさまざまな示唆を与えてくれます。法華仏教コースでは、日蓮聖人の思想や行動、その礎となった法華経の教え、日蓮教団の歴史的展開に関する学修を通じて、高尚なる精神性を学びます。

【学びの領域】
- 日蓮聖人の著作・手紙の学修
- 法華経の学修
- 日蓮教団の成立と展開
- 仏教の総合的な理解
- 21世紀社会と法華仏教のあり方

授業 Pick Up!

法華経概論１・２

数ある大乗経典の中でも法華経はインド・中国・日本を通じて広く信仰され、研究されてきました。その中では多くの譬喩が用いられていることから、きわめて文学性に富んだ経典としても知られ、日本の文学や芸術に大きな影響を与えてきました。この講義では法華経の教理とその解釈の歴史的展開を学びます。

仏教書誌学研究

書誌学とは、書籍・典籍を対象として、その成立や形態、また伝来などについて研究する学問です。この講義ではいわゆる「日蓮遺文」を対象として、その形態や書跡、またその後の継承と伝来について考察します。実物の資料を扱うことで歴史や先人の存在を強く意識することになり、仏教への関心と理解を深めることができます。

Rissho Style

法華仏教コース 3 年

現代の諸問題に、他の学問領域とは異なる視点からアプローチ。

答えのないテーマについて哲学的に思索・探求することが好きだったので、宗教や哲学を広く学ぶことができる立正大学の仏教学部を志望しました。
仏教学部は、仏教学のみならず仏教史・仏教文化など幅広く学ぶ「専門知」、哲学・倫理学など横断的・多角的に学ぶ「総合知」、そして「専門知」と「総合知」を最大限に発揮し現代社会が直面する課題の解決を目指す「実践知」の三つが基盤にあることが最大の魅力です。
卒業後は僧侶を目指すという目標があり、法華仏教コースを選択しましたが、それだけではなく、現代社会の諸課題に対して、他の学問領域とは異なる視点からアプローチできるのではないかと考えました。大学で得た「知のスキル」を生かして学び続け、その成果を世の中に還元できる場面が必ず訪れると思っています。

仏教文化研修

国内外のさまざまな文化を体験する人気のカリキュラム。

その他過去の訪問地●本行寺、根本寺、世尊寺、妙照寺【新潟県（佐渡）】●仁徳陵古墳、飛鳥寺、橘寺、法華寺【大阪府・奈良県】●比叡山延暦寺、神護寺、教王護国寺（東寺）【京都府・滋賀県】●富貴寺、臼杵大仏【大分県国東半島・福岡県】●願成就院、修禅寺、南禅寺【静岡県（伊豆）】
●アカデミア美術館、メディチ家礼拝堂【イタリア】●シギリヤロック、タンブッラ石窟寺院【スリランカ】●アンコール・ワット【カンボジア】●ボロブドゥール【インドネシア】●五臺山、天台山【中国】●アクロポリス遺跡、デルフィ遺跡【ギリシャ】●エフェソス遺跡、カッパドキア石窟群【トルコ】

国内仏教文化研修

鎌倉・伊豆

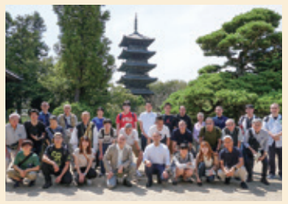
東国の古佛を巡る旅

伊豆地方に数多く遺されている平安期から鎌倉期の仏像彫刻を主軸として、関東地方に遺る慶派仏師の作品等を拝観する研修を行いました。各時代の造形様式の違いを感得するとともに、平安前期の仏像が伊豆地方で多数造立された経緯などについて、自らの感触に基づいて探る機会となりました。

岡山・香川

日本仏教の庶民信仰をたどる

備前法華や稲荷信仰、四国八十八箇所霊場にみる大師信仰や金比羅信仰、日蓮教団史上の在家信仰の特徴、そしてその背景となる地域の文化・歴史の変遷について体感的に学ぶことを目的として、岡山県、香川県での研修を行いました。



京都・滋賀

湖北湖東の仏像と山城の寺院研修

滋賀県の琵琶湖周辺と京都府南部の寺院を巡り、白鳳期から鎌倉期に制作された仏像彫刻を中心に拝観し、各時代の彫刻造形様式の特徴やその背景となる時代の変遷の必然について学びました。

海外仏教文化研修

ウズベキスタン・タジキスタン

中央アジア古代仏教遺跡巡り

ウズベキスタンでは、立正大学が学術調査を進めるズルマラ仏塔やカラテペ、カンピルテペ、ファヤズテペなどの仏教遺跡と、イスラム時代の都市遺跡であるヒヴァ、サマルカンドなどの世界遺産を見学。タジキスタンでは、アジナテペなどの仏教遺跡や、ペンジケント、サラズム遺跡などを巡りました。

インド

インド三大仏教遺跡参拝と現代インドの仏教見聞

海外仏教文化研修がスタートした1994年以来、4年に一度の割合で仏教発祥の地を訪問。インド三大仏跡として知られるブダガヤ、サールナート、霊鷲山の他、コルカタやダージリン、ナグプールなどで実地研修を行いました。インド仏教の過去と現在を理解する機会となりました。

ネパール

立正大学の過去・現在・未来を辿る

後のゴータマ・ブッダ、シッダールタ太子が出家するまでの歳月を過ごしたカピラ城。その城跡は1967年から立正大学が発掘、都城跡と確認されました。この地で立正大学とネパールの交流の歴史を振り返るとともに、太子生誕の地ルンビニやネパール文化の中心地カトマンズ盆地で数多くの世界遺産を体感しました。

2年次から始めるホンキの未来探し。

入学時から学生に寄り添い、新しい学びや生活への不安解消に向けて力を尽くす仏教学部の姿勢は、キャリア設計の場面でも貫かれています。
2014年度からは、2年次の学生を主な対象に「キャリアパス・ガイダンス」を開催。2020年度からは、こうした仏教学部独自の取り組みをより早期化し、回数を増やすことで一層の充実を図っています。
仏教学部で学ぶすべての学生が、自分らしい夢を描き、未来を手にすることも仏教学部の人材育成の目標の一つです。

仏教学部キャリアパス・ガイダンスの実施内容（2023年度は全4回実施予定）

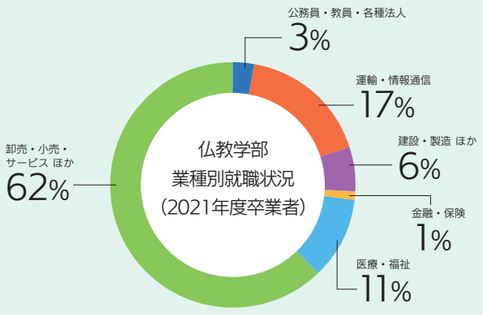
第1回（3月下旬）：キャリアサポートセンター職員の講話
※SPI模擬テスト体験、立正大学キャリアサポートセンターの利用方法やセンター主催行事の案内

第2回（7月上旬）：キャリアカウンセラーによる講演
※自己分析について

第3回（9月下旬）：上級生の体験談
※就職活動を体験した上級生によるプレゼンテーション

第4回（12月上旬）：卒業生の体験談とグループディスカッション
※卒業生による体験談を聞いたあと、卒業生・在校生がグループに分かれて自由に議論

卒業生の進路



主な就職先
- 東金市役所
  警視庁
- JR北海道
  インフォテックス㈱
  ㈱コスダック ほか
- ㈱リザルト
  ㈱シャトレーゼ ほか
- ㈱エコスマート
- 医療法人社団淳英会
  社会福祉法人みらい工房 ほか
- ㈱松尾商行
  ㈱ココカラファインヘルスケア
  ㈱セントラル・フルーツ
  メモリードグループ（関東）
  日蓮宗宗務院 ほか

主な進学先
- 立正大学大学院

仏教学部で取得可能な免許・資格

❶中学校・高等学校教員：中学校「社会」「宗教」、および高等学校「地歴」「公民」「宗教」の教員免許状を取得できます（高校「地歴」は仏教学科のみ）。
❷博物館学芸員：展示や保管、資料の収集、研究などに携わる専門職です。
❸社会福祉主事：地域社会で自立サポートなどの援助活動を行う専門職です。
❹図書館司書：公立・市立図書館において、収集や分類、貸出などに携わる仕事です。
❺僧階講座：日蓮宗の僧侶に求められる知識・行動を修得してもらうことを目的に設置した、仏教学部の独自資格です（僧侶としての認定を受けるには一定の条件を満たす必要があります）。
❻その他：学校図書館司書教諭、社会教育主事

就活 Report!

自分の希望をしっかり伝えることも大切。

入学後、仏教学への興味がどんどん膨らみ、もっと深く学びたいとの思いから大学院へ。大学院生のときに百貨店でのアルバイトを体験したことで、働くことの楽しさに目覚めました。さいか屋への就職を決めたのは、説明会や面接でいきいきと働く女性たちの姿を目にしたから。入社間もない若い社員でも、自分の意見を積極的に発言できる風土にも魅力を感じました。
就職活動は、選ばれるためのものではなく、自分の将来を選ぶ機会でもあります。お互いが納得のいく答えを見つけるために、自分の要望も勇気を持って発言することも大切だと思います。私自身も面接で、自宅に近い勤務先を希望することをしっかり伝え、実現することができました。

仏教学部卒
大学院文学研究科仏教学専攻修士課程修了
修士学位論文「大乗成業論の研究」により、仏教教理学術奨励賞受賞。株式会社さいか屋横須賀店勤務。

就活 Report!

背中を押してくれた「仏教学部は有利」の言葉。

「就職氷河期」という時代環境を認識していたので、2年次の頃から就職に対してあせりを感じていました。仏教学部出身というプロフィールを、企業の採用担当者がどう受け止めるのだろうかという不安もありました。そんなとき、ゼミの先生から「仏教学部は有利だよ」との言葉をもらいました。実際、面接などでは仏像制作の話で大いに盛り上がり、内定を得ることができました。
私自身の経験から言えるのは、就職活動のスタートは早ければ早いほどいい、ということです。自分の個性や社会で自分ができることはなんなのか、なにがしたいのか。そうした自己分析は、このガイダンスをきっかけに今すぐ始めましょう。早めに卒業後の進路を見つけられれば、4年次にはゆとりをもって卒業論文や卒業制作に取り組むことができます。

仏教学部卒
新卒で就職したディーラーでの営業経験を生かし、医療機器メーカーであるセンチュリーメディカル株式会社に転職。

就活 Report!

気になる会社のインターンシップには度々参加。

就職活動のスタートは比較的早く、3年次には5～6社のインターンシップを体験しました。現在の勤務先もその中のひとつ。陸上部に所属していたこともあり、ヘルスケア事業に興味を感じ、この会社のことをもっと知りたいとその後も度々インターンシップに参加。3回目のときに面接の機会を得て、内定に結びつきました。私がそうであったように、インターンシップは将来を決める大切な機会でもあります。十分な準備をして、真剣に取り組んでほしいですね。
入社後は、すぐに店長としてキャリアをスタートさせました。落ち込むこともありますが店長という責任のある立場が自分を育ててくれているように感じています。

仏教学部卒
インターンシップでの出あいをきっかけに、リラクゼーションスタジオ「Re.Ra.Ku」を展開する株式会社メディロムに入社。

※所属は取材時のものです。

卒業生インタビュー

仏教学科
思想・歴史コース
2021年度卒

広い視野から現状を捉える力が、精神的な強さにつながっている。

高校生のころ、倫理の授業で触れた東洋思想に強い興味を抱き、仏教学部に進学することを決めました。
大学の授業では「仏教史特講」が特に印象に残っています。仏教で最も重要な教えの一つである「空」の思想の変遷に、知的興奮を覚えました。また、三論宗の嘉祥大師吉蔵について学びましたが、苦手だった歴史も思想ベースで学ぶとすんなり頭に入ったことが衝撃的でした。先生方にはいろいろな質問をしましたが、聞けば聞くほど謎が深まり、知れば知るほど自分の無知が暴かれるため、仏教思想の奥深さに感服する毎日でした。
現在は、自治体向けのソフトウェア開発を行っている企業でSE（システムエンジニア）として仕事をしています。コンピューターのプログラミングと仏教はだいぶ距離があるように思われるかもしれませんが、激務が続いたときなどは、仏教学部の学びが精神的な面でとても役立っています。輪廻転生の概念からも分かるように、仏教はマクロな視点からものごとを分析することが多いと思います。仏教学部での４年間の学びは、そんな広い視野があることを私に気づかせてくれました。同時に、自分の現状を客観的に判断する力や、精神的な強さも身につけさせてくれたのではないかと考えています。

卒業制作作品

仏教学科
文化・芸術コース
2019年度卒

仏教学部の学びが、カメラマンとしての仕事に役立っている。

高校生のころは仏像鑑賞が趣味で、どうしても仏像を作ってみたかったのですが、立正大学仏教学部の秋田ゼミでは卒業制作として仏像や仏画を制作すると知って、志望を決めました。
仏教学部は、実習を含めた美術面での学びが充実しているのが魅力だと思います。また、実習以外でもっとも興味深かったのは、3年次に履修した「比較宗教文化論」です。仏教と他の宗教の相違点や類似点を比較しながら理解していくのが面白く、おかげで世界のニュースに対する理解度も上がった実感がありました。
卒業後は、成人式やウェディングの振り袖やドレスなどのレンタルサービスをメインに全国展開している企業に就職し、カメラマンとして仕事をしています。いい写真を撮るために重要なのは、被写体の表情やポーズ、そして画面の構図です。大学のゼミで仏像を作った経験は、被写体であるお客様にポーズをつけたり、画面全体の空間把握にとても役立っています。また、カメラを構えながら、仏教学部で学んださまざまなことをお話しすると、お客様に興味を持って聞いていただけるので、会話が弾んで緊張感が解け、素敵な笑顔を見せてくださいます。

宗学科
日本仏教コース
2021年度卒

仏教学の広さと深さを知り、冠婚葬祭に関わる企業に就職。

高校３年のときに立正大学の大学案内を見て、仏教学部のカリキュラムに「仏教デス・エデュケーション」という科目があることを知って興味がわき、いろいろ調べて志望を決めました。
人間は必ず死を迎える存在ですが、「仏教デス・エデュケーション」は仏教における死との向き合い方を学び、現代社会における死について考える授業です。私は以前から死生観に関心があったため、とても考えさせられました。大学４年間の学びを通して仏教学の広さと深さを実感し、未知の世界を知ることができました。
このような経緯から、冠婚葬祭に関わる事業を幅広く展開する企業に入社し、事業部の運営企画にも携わっています。仕事ではさまざまな人に接する機会が多く、中には苦手なタイプのときもありますが、それもその人の個性だと思えるようになったのは、仏教学部で学んだ４年間があったからだと感謝しています。

宗学科
法華仏教コース
2019年度卒

僧侶として生きていく上で、根幹となる重要な部分を学んだ。

私は寺院で生まれ育ち、仏教が常に身近であったものの、仏教の知識や教えを何も知らなかったため、仏教学部を志望しました。
大学では、先生方が一人一人の学生と真剣に向き合い、それぞれの個性に応じて熱心な指導をなさっている姿に心を打たれました。悩みの尽きない人生に、仏教をどのように生かしていくか。人々をどのように幸せにできるか。僧侶として生きていく上で根幹となる重要な部分を、仏教学部で学ぶことができました。また、仏教や日蓮聖人の教えを多角的な視点から学ぶことができたのも、仏教学部の特徴の一つだと思います。キャンパスは都心にありながら静かで、整備された環境で４年間を過ごすことができました。
現在は、僧侶を志す立正大学の学生のための学寮で、副寮監として仕事をしています。僧侶として、人として一番大切な心を育てていく立場にあり、日々誠心誠意学生に向き合い、少しでも良い方向に向かってくれることを願っています。指導の場で私がお手本としているのは立正大学の先生方です。お釈迦様や日蓮聖人の精神を受け継ぐ立正大学では、人の心に寄り添った指導をしていただきました。これからは、私がその精神を学生につないでいきたいと考えています。

立正大学 仏教学部案内 2024

〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
電話：03-3492-8528　E-mail：bst@ris.ac.jp

仏教学部オリジナル・ホームページ
https://bukkyo.rissho.jp/

仏教学部公式Twitter

仏教学部公式Instagram

仏教学部公式YouTube